共通様式１　　平成 14 年 11 月 6 日提出

国際協力事業団タンザンニア事務所
事務所長／駐在員／調整員　殿

隊員番号
隊員氏名
派遣国　　タンザニア
派遣隊次　14 年１次隊
派遣職種　理数科教師
出身県　　宮城県
身分措置　　有・無

第１号報告書(赴任３ヶ月目)の報告書を別添の通り提出します。

１　「青年海外協力隊の海外協力活動に関する合意書」の項３(6)に基づき提出します。

２　本報告書を国内での協力隊関係者への閲覧のみならず、原則として一般公開及び複写についても了承します。

３　本報告書を非公開とする場合は、その理由を記述します。
非公開の理由

署名

目次

１　隊員活動報告書

２　隊員業務報告書

３　隊員業務計画書

４　添付資料（有・無）

隊員活動報告書

１　第１号報告書（赴任３ヶ月目）として以下の項目について報告します。

（１）任国事情

（２）配属先の概要

（１）任国事情

ア．任国の印象：

私がタンザニアに着いてはじめに感じたことは、本当に開発途上国なのか？という疑問でした。なぜなら、日本にいるときに想像していたタンザニアという国とはもっと汚くて物が無くてなど、よくテレビなどで目にするいわゆるアフリカというイメージを持っていたのですが、いざタンザニアの地に降り立ってみると、立派な道路を日本車が行き交い、街の中心部に出れば、買えない物は無い（日本人が、日本と同じような生活が出来る）ほど物があるからです。

そして、もうひとつ感じたのは、怖さです。それは、一人で街の中を歩きたくない。周りにいるタンザニア人すべたが自分たちを狙っているように感じていました。しかしこの感情は、タンザニアで生活をしていくうちに、危なそうな人とそうでない人が分かるようになってくると、徐々に薄れてきました。

以上は首都ダルエスサラームの印象です。

私が自分の任地（ングドゥ）にはじめて足を踏み入れたときには、首都ダルエスサラームとはまた違った印象を受けました。“やはりここはアフリカだったのだ。”これが私の正直な感想でした。ちょうど私たち１４年度１次隊の赴任がタンザニアの乾季にあたることもあって、とても乾燥していました。バスが走るとその後ろには砂煙が舞い前が見えなくなります。こんな道をバスで二時間揺られ、降り立ったバスステーションは周りをローカルフードの店が囲み、バスの出口には荷物運びの少年たちが列を作る。任地に赴任して約１ヵ月半が過ぎた現在もこの印象は変わりません。

イ．現地語学訓練

現地語学訓練は、訓練所で英語の訓練を受けてきた人たちを対象にしたビギナーズクラスと訓練所からスワヒリ語を学んできた人たちを対象にしたインターミディエイトクラスの２つのコースに分かれています。私は、ビギナーズクラスで約３週間、挨拶、買い物、道の尋ね方などを学びました。

また訓練では、教室での語学の授業のほかに、タンザニアの文化や習慣に関するレクチャーや実際に市場に行って買い物をするなど隊員生活を送る上で有用な経験をすることが出来ました。また、現地語学訓練の一環で行われたヴィレジステイではこれ以上ないであろうというくらいタンザニアの現地人に近い生活を体験することが出来ました。この経験をした後私は、どんなところでも抵抗無く寝られるようになりました。そして、マラリアという現実もあわせて突きつけられました。(このときに感染したであろう隊員が 2 名)しかし、このヴィレジステイは２年間のタンザニアでの隊員活動の中でもなかなか体験することの出来ない経験だと思います。マラリアの危険はありますが是非続けていってほしいイベントだと思います。

そして、この現地語学訓練を退屈することなく積極的に取り組めたのも、講師の計らいによって実現した、ディスコ、ナショナルサッカーリーグ、ミスコンテストの見学などのタンザニアの社会経験の機会があったからだと思います。

ウ．生活及び食糧事情

私の任地（ングドゥ）は、タンザニア第 2 の都市ムワンザから約 90km 内陸に入ったところに位置します。ムワンザへの交通手段は、早朝 6：００と 7：００の 2 便のバスのみです。街はとても平和で、深夜 12：００ごろに一人で街中を歩いていても何の問題も無いと学校の先生たちは話しています（実際に試したことが無いので真偽の程は分かりません）。

電気は、現在乾季であるということもあってか停電もほとんど無く毎日安定して供給されています。停電も週に１,2 度はありますが、１０分程度で回復するので今のところ快適な生活を送っております。

水道は、公式には週に４回（火木土日）の午後 1:00 頃から約 5 時間出ることになっています。最近は毎日午後になると水が出ています。こちらも、特に不自由することなく快適です。

しかし、水道、電気は、町のすべての家には供給されていません。電気は、政府の住宅に住んでいる同僚の教員の家にも供給されていません。水道については、詳しいことは分かりませんが、私の家の隣の校長の家に水を汲みに来る村人がいるのを見ると、すべての家に供給されてはいないことが分かります。おそらく、水も電気も町の 3 分の 2 くらいに供給されているものと考えられます。

食料は市場に行くとそれなりには揃える事が出来ます。その一例を以下に紹介します。

主食：米、ウガリ、食パン、チャパティ、マンダジ（日本の揚げパンのようなもの）パスタ

野菜：ナス、トマト、たまねぎ、キャベツ、ジャガイモ、ピーマン、生姜、にんにく、は常に買うことが出来ます。オクラ、人参は時々見かける程度です。

果物：パパイア、バナナ、オレンジは常時、パイナップル、が時々あります。シーズンになるとマンゴーが山のように出てきます。（マンゴーはただみたいな値段で変えます。なぜなら、そこらじゅうにあるから）

豆類：大豆、ピーナッツ、その他数種類が買えます。

肉　：牛肉、生きた状態の鶏、卵が買えます。

魚　：燻製にした小魚と、テラピアはならんでいます。曜日によって新鮮なテラピアが買える日があります。

調味料：塩、砂糖、トマトケチャップ、粒胡椒、ターメリック程度が変えます。

また、街の食堂では、ワリニャマ（ライス＆牛肉）、ワリクク（ライス＆鶏肉）、ワリサマキ（ライス＆魚）、チプシ（フライドポテト）ムシカキ（牛肉の串焼き）が食べられます。

エ．安全対策及び健康管理

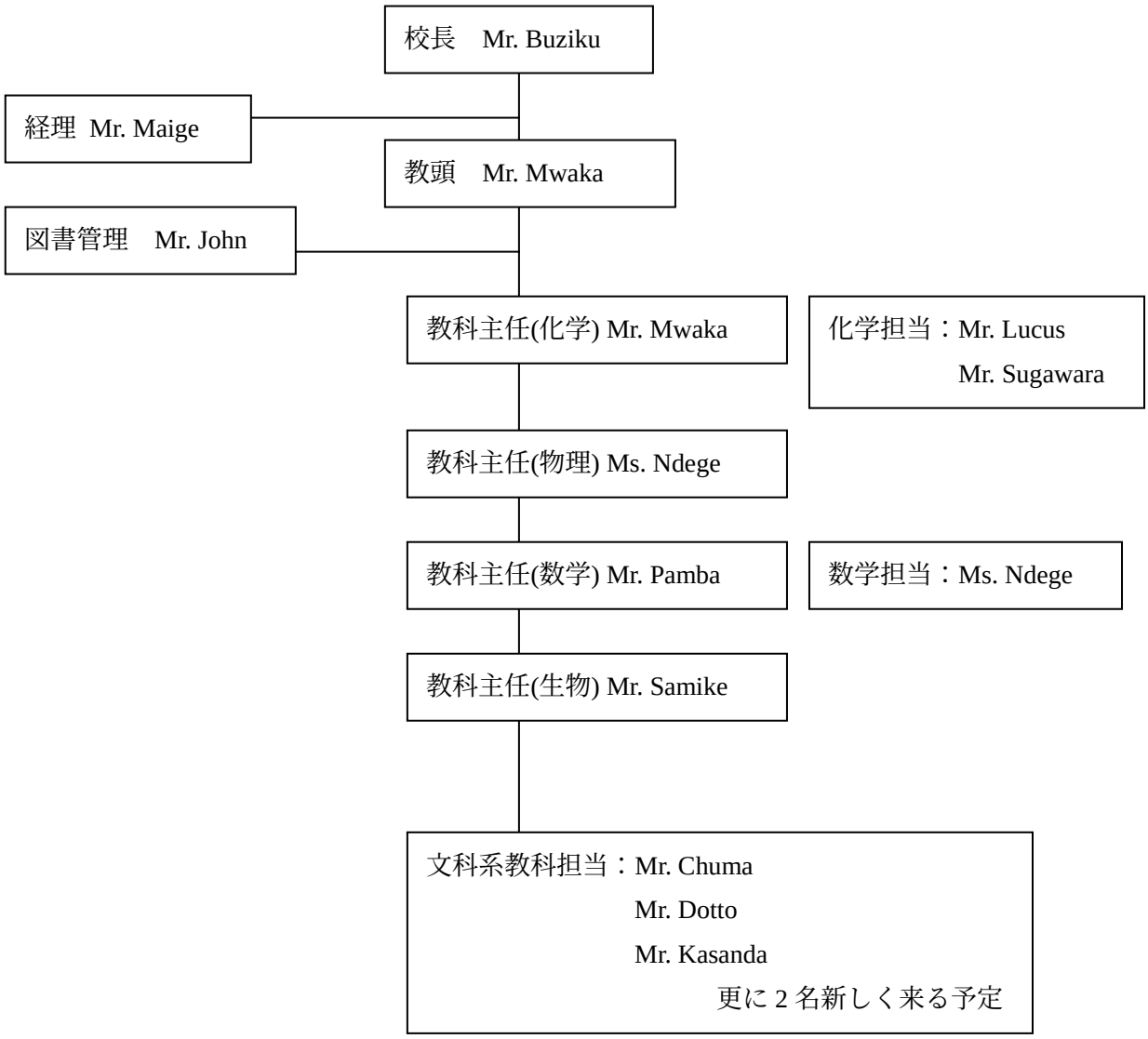
交通事故については、町の中をほとんど自動車が走っていないので特に心配ないと思います。治安については、校長の話によるととても安全で今まで 30 年間、何も無かったということですが、町のなかにたった一人の外国人が入ることによって、町に変化がおきるということはありえないことではないと思います。現在警備員は雇っていませんが必要に応じて考える必要があるかもしれません。（現在は、学校の警備員に一応見回ってもらっています。）

この地域はマラリアがあるということなのでマラリア対策はしっかり行っています。同僚の先生にかかった人がいるので間違いありません。水は、硬水です。煮沸するとなべのそこに白い沈殿が出来るほどです。おそらく直接飲むと、徐々に歯が溶けるなどの問題がおきると思います。

（２）配属先の概要

ア．配属機関名：Ngudu　Secondary　School

イ．配属先の組織：



注：理数科担当の教員については、１人が２～３教科教えていますが、メインの教科のみ記述し、重複するものは省略しました。

自分を含めて、授業を受け持っている教員は１0 名、各教員の平均授業数は２４ピリオドです。生徒数は約３００名。私は FORM Ⅰの数学と FORMⅢの化学を現在担当しています。

ウ．予算について：

詳しいことは分かりませんが、チョウクはきちんと準備されており、チョウクが無くて授業にならないといったことはこれまでに起きていません。また、教員用のボールペンやメモ用紙も時々支給されているのである程度予算には余裕があると思います。しかし、黒板消しは無く、ぼろきれなどで消しているのが現状です。

机や椅子は不足しています。一応教室に居る生徒は一組の机と椅子に２人で座るなどして全員座っていますが、すべての生徒が出席したら、間違いなく座りきれないという状況です。倉庫に新し

い椅子がしまってあるのですが、なぜ使わないのかは分かりません。

教科書は倉庫にきちんとしまってあって、使いたい生徒が書庫に行って管理人から借りることが出来るようです。しかし、すべての生徒が使える程の量はありません。ほとんどの生徒は教科書を持っていませんが、倉庫から借りようとする生徒もほとんどいないのが現状です。

エ．外国の援助：

日本大使館の草の根資金援助で建てられた、物理、生物、化学の各実験棟があります。利用状況などについては本号の趣旨と異なるので、次号以降に記述する予定です。

共通書式４　　隊員業務計画書　　作成日：2002 年 10 月 18 日

第 1 号報告　派遣国：タンザニア　隊次：14 年 1 次隊　職種：理数科教師　氏名：

	業務計画	活動継続期間		
活動目標	活動内容			
	第 2 号報告書までの 3 ヶ月	赴任 4 ヶ月	赴任 5 ヶ月	赴任 6 ヶ月
		14 年 11 月	14 年 12 月	15 年 1 月
学校の状況をきちんと把握する	1. 生徒のレベル・理解度の把握			
	2. 教師の知識レベルの把握			
	3. 実験設備・材料の把握			
	4. 授業の状況の確認			
	5. 自分の英語力の向上			
	第 2 号報告書から 3 ヶ月	赴任 7 ヶ月	赴任 8 ヶ月	赴任 9 ヶ月
		15 年 2 月	15 年 3 月	15 年 4 月
生徒の意識改革	1. 覚える事ではなく考える事を意識させる			
	2. 間違いを沢山させる			
	3. 未知の問題に対しても自分なりの答えを出せるようにする			
	4. 自分の英語力の向上			
	第 3 号報告書まで	赴任 10 ヶ月	赴任 11 ヶ月	赴任 12 ヶ月
		15 年 5 月	15 年 6 月	15 年 7 月
理数科が嫌い、苦手な子供たちに興味を持たせる。	1. 実験・実習をできるかぎり行う			
	2. 補習の開始			
	3. 自分の英語力の向上			
	第 3 号報告書から 3 ヶ月	赴任 13 ヶ月	赴任 14 ヶ月	赴任 15 ヶ月
		15 年 8 月	15 年 9 月	15 年 10 月
理数科の楽しさを伝える	1. 教科の学習とは異なる楽しい理科実験を行う			
	2. 補習の継続			
	3. 英語学習の継続			
	4. スワヒリ語での解説に挑戦			
	第 4 号報告書まで	赴任 16 ヶ月	赴任 17 ヶ月	赴任 18 ヶ月
		15 年 11 月	15 年 12 月	16 年 1 月
教師に対して少し働きかけてみる。	1. 教えることではなく共に考えることが生徒の学力の向上につながることを密かに伝えたい			
	2. あまり威張らなくても生徒は言うことを聞くと思う			
	3. 補習の継続			
	4. 英語の学習の継続			
	5. スワヒリ語の学習の継続			

	第 4 号報告書から 3 ヶ月	赴任 19 ヶ月	赴任 20 ヶ月	赴任 21 ヶ月
		16 年 2 月	16 年 3 月	16 年 4 月
生徒に本当の学習を教える	1. 暗記からは何も生まれないことを伝えたい			
	2. 大切なことは正解を導くことではなくて、なぜそれが正解なのかを説明できることだということを伝えたい			
	3. 根拠の無い正解は不正解と同じであることを知ってほしい			
	4. 語学の学習の継続			
	5. 補習の継続			
	最終報告書へ向けて	赴任 22 ヶ月	赴任 23 ヶ月	赴任 24 ヶ月
		16 年 5 月	16 年 6 月	16 年 7 月
学ぶことの楽しさ、学び続けることの大切さを共に考える。	1. 生徒が説明をする授業を企画する			
	2. 楽しい実験の継続			
	3. 語学の学習の継続			
	4. 補習の継続			

2 年間の活動の大きな目標として、自分が担当した学年の教科書(化学)にある実験の道具をすべて準備して、生徒が言葉だけでなく実際に見ることによって理解できるようにする。

活動計画について、書式及び指示に従った都合上、上記のような変な計画になってしまいましたが、これは活動計画とは違うと自分でも思います。しかし、教師隊員の活動は基本的に授業を行うことであり四半期ごとの活動の計画も“授業を行うこと”となってしまい、特に書くほどのことでもないような計画書になりかねないと思います。さらに、各タームの授業の振りわけはそのタームの直前に行われるので、現時点では、1 年後の予定など書くことが不可能です。また、上記の計画表についても一応 3 ヶ月ごとに区切って記述しましたが、これらの事柄は常に意識しておくべきことであり、実際の活動においてこの通りにはならないと思います。

教師隊員が、増加傾向にある今日、教師隊員に対する活動計画のあり方を検討してみてはいかがでしょうか。(職種に沿った計画のみを記述するのか、それ以外の日常生活にいたるまでの計画を記述するのか、授業以外の課外活動に重点をおいて記述するのか、“授業を行う“で十分なのかなど)

隊員任地交通事情調査

添付資料 2

(派遣国　タンザニア)

平成 14 年 9 月 11 日

氏名：	隊次：　14 年　1 次隊	職種：　理数科教師

業務形態　：　（1）村落型　(2)教室型　(3)現場勤務型　(4)本庁・試験場勤務型

勤務地　(ムワンザ周辺)　：　(1)首都　(2)地方の大都市　(3)中都市　(4)農村　(5)僻地

自宅から職場までの距離：0.3km　　自宅から最寄りの商店までの距離：1.0km

通勤上使用する道路の状態　(国道・県道・その他)

(1)道幅：　2.0m　　(2)道路状態　①全舗装(コンクリート・アスファルト等)

②未舗装(その状況：砂・雨で流されてでこぼこ)

③舗装　(　　%)、　未舗装　(　　%)

業務上使用する道路の状態　(国道・県道・その他)

(1)道幅：　4.0m　　(2)道路状態　①全舗装(コンクリート・アスファルト等)

②未舗装(その状況：砂・雨で流されてでこぼこ)

③舗装　(　　%)、　未舗装　(　　%)

隊員が通勤・業務上使用する道路の一般的使用形態(走行車の種類、混雑状況、歩行者の多少、ヤギ、水牛等も歩行しているか否か等の特徴を記入)：　バスが 1 日約 5 台、大型のトラックが時々走っている。常に車が走っている道ではない。歩行者は常に道にいるが混雑しているといった感じではない。もちろんヤギ、水牛は、歩いている。

現地人の交通マナー事情(日本と違う点を記入)：自動車は基本的に人をよけようとしない。

任国の交通ルール事情(日本と違う点を記入)：自動車の左折は信号に関係なく可能。右折は右折専用の信号が青のとき以外は右折できない。

隊員の通勤交通手段と種類

(1)徒歩、バスなどの公共交通機関　　(3)協力隊貸与の(自動車・単車・自転車)

(2)配属先提供の(自動車・単車・自転車)　　a：その車種・排気量〔　　cc〕

(配属先保有車両　自動車　　台　単車　　台)　　b：貸与年月日　　年　　月　　日

隊員の業務上交通手段と種類

(1)徒歩、バスなどの公共交通機関　　(3)協力隊貸与の(自動車・単車・自転車)

(2)配属先提供の(自動車・単車・自転車)　　a：その車種・排気量〔　　cc〕

(配属先保有車両　自動車　　台　単車　　台)　　b：貸与年月日　　年　　月　　日

協力隊貸与の自動車・単車の週当たりの平均業務使用日数　(予測)：

週　　日間業務上使用する予定

協力隊貸与の自動車・単車の一日当たりの平均走行距離数　(予測)：

(1)　通勤：　　km　　(2)　業務上　　km　　(3)　その他　　km

隊員配属先の職域の現地職員の通勤手段の割合　　対象職員数　9　名

＜通勤手段＞　公共交通機関(　　%)　　自家用車(　　%)　　単車(　　%)　徒歩(　8 ~~%~~名)

職場等の公用車(　　%)　　その他(種類：自転車　1~~%~~名)

隊員がこれまでに事故に遭遇した件数　(　0 件)

(事故の程度：　新規のため事故は無い　　)

任地に発生する一般的交通事故例とその原因について記入

自動車がほとんど走っていないので事故は起こりようが無いと思われる。